



第12回 論語指導士 鈴木義史（第百五十六号） 静岡県

「新型コロナと社会的転換期に思う」

約2500年前、二人の賢者が申しました。奇しくも「知る」について述べました。ソクラテスが「無知の知（不知の自覚）」と、孔子は「之を知るは知ると為し、知らざるは知らずと為す これ知るなり。」と述べている。

人の「知っている」は、少々の知識の場合が多く、本質まで知ることはない。

今回の新型コロナウイルスが短時間に地球規模で感染し、その恐ろしさも知らなかった。人類の歴史に於いて、疫病、感染症との係わりを知る人は、その道の研究者・学者、医療関係者以外 僅かであろう。

「伯牛疾あり 子 之を問う。窓より其の手を執りて曰く、之ぞ亡からん。命なるかな。斯の人にして、斯の疾有り・・・」という

名シーンは、ハンセン症と思われる疫病に感染した伯牛を孔子が見舞った時のもので、約2500年前にも、この感染症があったとは、論語を学ぶまで知らなかった。

調べれば、エジプトのミイラからは天然痘に感染した痕が確認されているという。日本に於いても、奈良時代、天然痘・飢饉が発生し、その厄除けにと奈良の大仏が建立された。100年前にもスペイン風邪の世界的感染も起きた。

自然界の中に生きてきた人間は、動物からの感染等により、ペスト、コレラ、インフルエンザ等、数々の感染症との闘いの歴史を重ねて来た。世界的感染の後、社会的転換期となった歴史的事実を知るべきである。

新型コロナウイルスの世界的感染拡大は、20世紀後半からのグローバル化への急速な拡大を続けた経済活動の一つの「ひずみ」と思う。物的豊かさの追求であった。売上を上げろ、より利益を追求、より企業拡大と、がむしゃらに、国内だけでなく、地球上を動き回り、儲かるビジネスはないか？儲けるための開発という名目で自然を破壊した。この人の行動は、グローバルな経済活動と血眼になって動き回った結果、環境破壊をし、異常気象を派生させ、貧富の差等を広げてきたのである。

新型コロナウイルスの発生原因が、人為的であるか、自然環境からなのかはともかく、人間の利己的経済活動の結果だと思う。

故に、人的災害とも言える。転換期である今こそ、人間と感染症と社会環境との歴史を学び、新たな知恵と発想を以て進まなければならない。

孔子の言う「故きを温め新しきを知る。」と「故きを学んで思考し、思いは学び。」創造性を以て社会的転換期に向かわなければならない。



「加地伸行からの百字答礼」

鈴木義史様へ。

新型コロナの渦中の日々ですが、昔から疫災は絶えずありました。月刊誌『Hanada』7月号に、中国の例の一部を引いて書きましたので、ご覧ください。コロナに罹らぬよう十二分に注意してゆきましょう。